

平成 30 年度 沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 平成 31 年 1 月 31 日（木曜日）15 時 00 分～16 時 20 分
- 開催場所 沼津市役所水道部庁舎 3 階会議室
- 出席者 市長 頼重 秀一
教育委員 川口 浩史
教育委員 三好 勝晴
教育委員 土屋 葉子
教育委員 重光 純
- 欠席者 教育長 服部 裕美子（体調不良により）
- 協議・調整事項
 - (1) 沼津の教育について
 - (2) 学校規模・学校配置の適正化について

【内容】

- 1 開会
- 2 市長挨拶

本日は足元の悪い中、また大変お寒い中、そして皆様方にはそれぞれお仕事がある中において、このようにお時間を割いていただき、沼津市総合教育会議にご参加いただきましたこと、心から感謝申し上げます。

開催に際し、一言ご挨拶を申し上げます。皆様にご案内のとおり、この総合教育会議は、市長と教育委員会の皆様方と意思疎通を十分に図り、そして連携をして沼津市の教育行政に取り組むために、市長が開催するものとなつているところであります。今回、私が昨年 4 月に市長に就任して初めての総合教育会議ということでございますので、本日は、皆様方が沼津市の教育に対して思っていることをぜひともご意見として述べていただき、今後の沼津の教育のより良き方向をしっかりと見つけ直して進めていきたい、そのように考えているところでございます。

どうか闊達な意見交換ができるようよろしくお願いいたします。

（出席者紹介）

3 協議・調整事項

(1) 沼津の教育について

会議の進行については、沼津市総合教育会議設置要綱に基づき、座長であります市長が行う。

(市長)

本日は、総合教育会議ということで、教育についての会議である。次代を担う子どもたちがたくましく心豊かに成長し、かつ豊かな未来を切り開いていく能力を養っていくために、教育が重要であることは改めて申し上げるまでもないことと思う。市政においても市民の一人一人の皆様が、明るく生き生きと暮らすまちづくりの実現のためには、教育環境を充実させることは大変重要なことであり、また、教育とそれ以外の分野とは切って離すということはできず、連携していく必要がある。本日この場に、教育委員会の皆様が一堂に会し、意見交換する機会を得たことは、皆様と力を合わせ、より良き教育を実現していく、大きな一歩になるものと私自身は考えている。

今回の総合教育会議は、私が市長に就任して初の会議であるので、まずは、沼津の教育について広く捉えさせていただき、大所高所の視点で大きな方向性について、教育委員会の皆様方と一緒に考えていけたらよろしいのではと考えている。

私自身も市長になる前に15年間ほど市議会議員として務めさせていただいた中で、PTA活動や沼津市スポーツ少年団、読み聞かせの活動などを通じて、様々な場において子どもたちと関わる機会を得た。また、小中学校のときにはボーイスカウトにも参加し、子どもの立場ということと併せて子どもたちを見守る立場、支える立場でいろいろな体験をさせていただいている。教育委員の皆様はそれぞれの立場において見識と体験があり、そのあたりのところを踏まえてご意見をいただければと思う。

(委員)

教育委員を拝命して、10年目になる。PTA活動に長く携わり、そのご縁で教育委員を拝命したのかなと思っているところである。地域では、PTAをきっかけに「第五おやじの会」というのを拵え、皆さんとともに、第五地区の子どもたちのための活動をした。そのなかで、子どもたちは、やっぱり地域にはぐくまれて育つというのが一番いいだろうと思っている。ただ、私も教育委員という立場になると、同じ沼津と言っても、全く考え方や地域の有り様とかが違うものであると感じ、それを「教育」ということでひとつに束ねるのはなかなか難しいことだと思ふこともある。子どもたちがどう育ってほしいかと考えると、静岡県、特に沼津は、環境的にはとっても住みやすい。冬の時期を見れば、ほかの東北や北陸などのように雪が降ることはなく、環境に恵まれた場所だと思う。その環境を

生かすということが、大いに大事なことであり、地域に育った子供たちが、沼津というまちを愛せるようにならないといけない。大きく育って世界に羽ばたいたときに、自分の故郷は沼津でよかったと、どこに行ってもそういう話ができるような子になってくれたらいい。そのためには、親、我々大人がもっともっと沼津の良さを見直す必要がある。「町中がこんなに疲弊している」とか、批判的な話が非常に多い。そういうことは、自分がまちに育っているんな恩恵を受けているわけだから、大人が「良いまちだ」と言わなければ、子どもたちも「良い」とは絶対言わない。そういう根本的なところは、まず我々大人が見本を示していくということが大事だと思っている。

(委員)

頼重市長になって初めての総合教育会議の開催、とても我々にとって嬉しいことである。もっと回を重ねて我々と、子どもたちのためにどういう教育が一番ふさわしいか、一番いいかという共通の目的を基に、より良く共通意識を認め合えるような会議が重ねられるといいと思っている。

今年、新成人議会を傍聴した。どの新成人も、沼津の環境や気候やこの素晴らしさを、沼津を出て初めて気付いたと話し、傍聴していて大変嬉しく思った。また、それは沼津の教育が、子どもたちにそう思えるような教育をしてきたからで、それは間違いなかったのだという気持ちになった。その素晴らしい若者たちが沼津を離れて初めて沼津の良さに気づき、外に羽ばたいてもいいが、沼津のために活躍したいと思って戻って来られるような政策を、市長が産業振興などに取り組んでいただきたい。若者たちが将来沼津で生活できて、しかもそこで子育てもしたい、自分たちと同じようないい教育をこの沼津で受けたいと戻ってきてもらえるように、まずは将来を考えられるような教育をして、その後、次の世代のお子さんたちも沼津で素晴らしい教育を受けてほしいと、そんなことを今年の新成人議会で感じた。

(委員)

私は、福祉の仕事をしており、また私ども法人の施設は、昭和 58 年から中学生の体験学習の受け入れをしており、その窓口を 13 年担当し、地域の子どもたちと関わってきた。私も子どもがいるが、PTA に関わる前に教育委員になり、教育委員になってからいろいろと教育行政について勉強させていただいている立場であると日々感じている。一緒に働く職員からもいろいろな悩みなどを聞く。今の子どもたちを見ていると、私たちが育った環境とかなり違う環境の中で育っている。特に子どもたちが集まってわいわい遊んでいる風景をあまり見ないと感じており、それはすごく寂しくて、私たちが小さい頃は近所の人が悪いことをしたら怒ってくれたということがあったが、今はそういうこともなく、子どもの教育

が全部家庭と学校に集中していると思う。今、私はできるだけ地域に出て行って、地域の子どもたちに声を掛けるよう心掛けている。また、SNS のこともあり、コミュニケーション能力が問われる時代ではと思う。教育大綱には、基本的な方針に「コミュニケーション能力の向上を図り、国際感覚を豊かにする教育」や、「地域における人と人とのつながりを大切にし、『住んだところ』『住んでいるところ』『住むであろうところ』を愛する心をはぐくむ教育」とあり、これにすごく共感している。

(委員)

私は、教育委員を拝命して3年目、元々の出身は東京で、しかも東京で小学校から国立だったため、沼津市における教育、それから公立の教育に対して全く無知で、どこまで沼津市の教育委員として何か役に立てるのかと思いつながら3年目を迎えている。縁あって12年ほど前に沼津に転居してきたが、沼津は東京と比べて非常に住みやすい。毎日富士山が眺められて、食べ物はおいしいし、風が強いだけが玉に瑕だが、あと津波のリスクが若干というところだが、住んでいるととてもいい場所だと思う。私は沼津から越す気は一切ないので、このまま沼津で生きて沼津で死んでいく、そう思っているし、また子どもが沼津の小学校に通い、下の子もいるので、今後は保護者として沼津の教育にも携わっていくことになると思っている。

沼津に来て東京の学校との関わり合いに比べて考えるのは、朝、私も子どもたちが横断歩道を渡るのに旗振りをしているが、保護者や地域の方が旗振りをしていて、子どもを地域全体で育てているところ、地域で見守っているというところは違うと思った。また、沼津に来て思うのは、沼津市の方は沼津に対して自信がないことを言い、「あのときこうすればよかった」と昔の話をする。これから何かを変えようとしても変えないほうがいいと言う勢力があつて、何も決められないまま時間ばかりが過ぎていると言われるような状況である。私は子どもを育てていくに当たっては、沼津市の教育大綱に「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」とあるから、子どもを「夢ある人」にしたいのならば、大人自身がこの沼津を盛り上げて、沼津の良いところをもっと自覚して、「沼津はいいところだ」とみんなで言い合えるようにしないといけないのではないか。その点で、市長が沼津を全体で盛り上げていこうというところが、教育行政にも波及する効果は大きいと思う。やはり人間は、まず自尊心が大切だが、それから家族愛、郷土愛、そういう自分の周囲のものを愛することが健全というか、幸せに育つための大事な要素だと思う。なので、沼津を愛せるように、沼津の大人が頑張っていかななくては子どもの教育というのは成り立っていかないのではと思う。

また、市内小中学校を何校か視察した際に、子どもたちが元気にあいさつをしてくれた。私が小学生のときにはあまりそうできなかったもので、私が受けた教育

より挨拶に関しては子どもたちはよい教育を受けていると思う。

また、私の周囲では、子どもが中学生になるときに、そのまま市立の中学校に通わせることにどうかと悩み、首都圏の中学に通わせたり、東京に移り住んで、保護者は仕事のために沼津に来て子どもは東京の学校に通わせたりといったことを聞くことがある。それが果たしてよいのかと考えるところではあり、特に中学教育、若しくは小学校高学年の教育において、より高いレベルの教育を受ける機会というものがあるのかと思う。公教育なので、全部の子に対して平等に与えなければならないということが難しいところではあるが、そういうものがあればもっと沼津に若い世代が定着していくのではと思う。

(市長)

教育委員の皆様には、現状を踏まえて話をいただいたが、例えば「沼津ならでは」ということや沼津の素晴らしい環境を生かした教育をどのように実現していたらよいかということなどの考えを伺いたいが、いかがか。

(委員)

沼津は歴史ある地域である。この地を初めて訪れた友人が「沼津は歴史的な名所がある素晴らしい土地柄だ」と話してくれたが、中にいると当たり前だと思っているのでなかなか気付けない。沼津の歴史ある文化を子どもたちがもっと認識し、沼津の良さを感じる教育を推進してほしい。

(市長)

まさに、そういうところが「誇り」ということに繋がっていく。沼津を愛するとか郷土愛とかにも繋がる。大人になってから学ぶこともあるが、小さい頃に受けたもの、またそれがいかに早いということも重要だということも聞いたことがある。そういう点では、歴史的なことや地域の優れた文化を学ぶ機会というのは大変重要であると考えている。

(委員)

歴史、学術、美術、文化が、沼津はたくさんある。ただ、沼津は地理的に広く、割と点在している。社会教育施設でこんなことをやっているということを大人が知らない。ぬまづの宝100選は、沼津の良さを見直し、再発見してほしいということだった。まず大人に知ってもらうことがとても大切。親が知らなければ子どもにも伝えようがない。それから、私は教育の基本は家庭にあると思っている。学校教育は限界があり、親が子どもたちに基本的なこと、生きる姿勢、礼儀作法とか、まず家庭でしっかり教えなければならない。文化のことも、大人がある程度知れば子どもにも伝えられる。そこに学校教育でいろんな施設に行って学ぶカリ

キュラムがあるから、複合的になっていけばよいと思う。学校が「家庭でもこうやってほしい」というと教育を放棄したみたいになってしまうから、学校があまり言うのは難しいかもしれないが、もっと強く、学校から家庭への投げかけというか、きちんと家庭に「これは家庭の問題でしょ」と言ってやっていったらいい。そういうことを教育委員会から言うのはなかなか難しいのかもしれないが、どういふうに家庭との橋渡しを作ればいいのかということを考えてらよいのではと思う。

(市長)

情報発信については、沼津で行われる様々なイベントについてしっかりと情報発信するという事は重要なことである。また、教育に関わる内容等については、やはり教育委員会としっかりと連携を取りながら、適切な情報を適宜というかたちでしっかりと発信すべき。やはり「伝わる」ということが大変重要なことである。

また、地域のさまざまな歴史などを生かすことも大変重要である。先日、沼津兵学校創立150周年記念式典が行われたが、それに関わった江原素六先生について江原学習に取り組む学校があり、子どもが学ぶことによって親に伝えて親が知るといったケースもあるので、いろんな取組の仕方があると思うが、とにかく先程来話に上がってきているように郷土愛とか地域に対する思いというのをはぐくむのも非常に大切なことのひとつであり、充実させていくことが大事である。

(委員)

今日は頼重市長と初めての総合教育会議なので、伺いたい。

新しい教育委員会制度になり、総合教育会議の設置が法律で決められた。この会議は、まず一番に教育行政の大綱の策定、そしてその次に教育の条件の整備など重点的に講ずべき施策、そして児童生徒等の生命又は身体に被害が生じる等の緊急の事態に講ずべき措置について、話し合うものである。

沼津市の教育大綱を策定したのは栗原市長のときで、年間4回程会議を開き、そこで決められた。教育委員が「市長が変わったら大綱も変わるのか」と質問をしたら、市長は「変わらなければ意味がない」「市長が変える必要がないということであればそれでいいが、同じ市長であっても、時代や社会環境が変わったら、変えていく必要があるのではないのか」と答えた。平成27年度に大綱を策定してからもう4年近く経つ。もしこういうかたちで変えていった方がということがあれば、示していただければと思う。

(市長)

総合教育会議の協議事項として3点挙げていただいたが、初めに教育大綱の策定がある。前市長がその当時に策定し、それを引き継いだ前市長が就任されて

それほど時間がなかったということもあり、この総合教育会議自体が開かれることが難しかった。この教育大綱自体は大変素晴らしいものであると私自身も考えているところがあるが、先程触れられていたように、時代が相当急激に流れているということで、子どもたちを取り巻く環境も当時と変わっている部分もある。そういうところを適宜捉えさせていただきながら、より現在の子どもたち、未来を見据えて考え、そのためになる教育大綱は、どのようなものが必要であるのかと考えるところである。いろいろと検討していくということは相当の熱量をつぎ込まなければなかなか難しいと捉えており、やはり期間は別として、しっかりと教育委員の皆様と機会を捉えて話し合いをし、あるべき姿、こういうふうに変えたほうがよいのではないかという議論になれば、それは考えている。今の段階ではそのように捉えているということで、ご理解いただきたい。

(委員)

私は教育委員という立場であり、教育の行政には直接携わっていないが、長いことこの立場で感じるのは、行政の縦割り、これは縦に割っていないと動かないところはあるが、もうちょっとここ一番というところで横の連携が取れるような動きができないものだろうかと思うことがある。ひとつの課に任せきりにしないで、もうちょっと相談してできないものだろうかと思うことがある。市長には、ぜひ場面によっては連携を取れるような行政の有り様であってほしいと切に思っている。

(市長)

教育のことに関しては、まさにこの総合教育会議こそが市長と教育委員会の皆様とともに、思いを共にしながら、教育のためにいかにあるべきかと語る場であり、そう機能しなければならないと思う。また、課をまたいだ形の連携というのをプロジェクトチームを立ち上げるなどして、過去には行われている。適宜そのような機会を通じてしっかりとやっていきたいと考えている。

(2) 学校規模・学校配置の適正化について

(市長)

次に、全国的に少子高齢化が進む中、本市が直面している課題のひとつである学校規模・学校配置の適正化について、まず事務局から概要を説明する。

(事務局からの説明)

(市長)

全市的な現状、これについて取り組めること、進めるべきことに関するご意見を伺いたいが、いかがか。

(委員)

人口減少は日本全体の現象であり、沼津に独特のものではないと思う。学校が維持できるほどの子どもがいないということになった場合に、国の法改正等で子どもがインターネットでサテライト授業を受けるということがあったとして、それで学校に代替するかというと、学校とはそういうものではない。集団生活の中で友達や先生、それから学校という社会生活で学んでいくものが、学校の授業ということと同じくらい重要であると思う。給食もある。沼津はこれだけ食べ物に恵まれていておいしいものが多い。豊かな野菜をたくさん食べられて、魚も新鮮だと、そういうところをたくさん学び郷土愛をはぐくんでもらいたい。子どもが適正な人数で学んでいけるようなことを確保すること自体が大人の責任である。できる限り早期の対応をして、もちろん地域の皆様のご意向もあると思うが、子どものために早期の対応をして、我々が考えている学校教育というものを全ての子どもが、沼津市全体の子どもが受けられるような機会を確保していただきたい。

(委員)

私も今の意見に同じような気持ちでいる。自分を顧みても、ある程度大勢の友達の中で切磋琢磨して、それが学力のことではなく、あの人のいいところ、この人のちょっと良くないところとか、小さいころから感じられる。それがその後の社会に出たときにすごく大きな要素になって自分のためになった。少人数でいつも同じ先生と一緒に接するから、それは優しい教育になるかもしれないが、切磋琢磨という言葉がどこかにいってしまうようでは、これからの人生を過ごしていくには問題ではないのか。人口 19 万人のこの沼津市において、離島でもなければ、山奥の過疎地とは違うので、これこそ行政が何かの施策をして、子どもたちが一番適した教育環境で学習できる、お互いに高め合うことができるということが大事である。市としては、スクールバスを利用させてもいいし、あるいは今の校区の線引きを大きく変えていくことも必要ではないか。小中学校は、地域に根差したものであるので、親の気持ちとしてはいろいろあると思うが、子どもの教育のためを考えたい。先生方も人数が少ないと複式授業など苦勞が多い。行政には、子どもたちのために適正規模が必要であることを地域の皆様に納得していただいて、できるだけ早く進めていただきたい。

(委員)

教育委員になるまでは少子高齢化、少子のほうはいまいちリアリティがなかった。教育委員になって、いろいろ見学させていただく中で、本当に子どもがいない地域があると実感した。学校規模・学校配置の適正化についても、最初はぴんと来なかったが、複式学級の授業を見せていただいたときにこれは大変だと、それは子どもにとっても、先生にとっても負担が大きいものと思うので、これは喫緊に解決しなければならない課題なんだということを感じている。地域の方々の思いは非常によくわかるが、現実を見ながら推進していただくということが必要と思う。

(委員)

非常に大変な問題であると本当にそう思う。沼津市は地理的にもすごく広い。人口だけ見たら、この子どもたちの数でこの学校の数というのはちょっと考えられないが、これは地理的な要因による。これから先、沼津市だけが飛び抜けて人口が増えるというのはいかないだろうと思うし、ではどうするか。まず、今沼津に住む皆さんにこういう状況にあることを全体的に把握していただく必要がある。このあいだも小規模の学校を見させていただいて、子どもたちは昼休みで遊んでいる姿は伸び伸びしている。仲良く、楽しく。それだけを見ていると、「こういう環境でいいよね」と思うが、教室には子どもが少ない。そこで複式というのが出てきてしまっているわけで、3年生、4年生が背中合わせにひとつの教室を使って、先生がこっち行ってあっち行って授業を行うから、そうすると子どもたちに基本的な、基礎的なことを学ばせていくという学校教育でそれはなるべく避けたい。数字合わせで学校の数をぽんっと減らしてしまうことはできないから、そうすると各地域とかできる限り地域の了解を得ながらできる限りの適正規模で統廃合していくというふうに考えていく。そして複式にならないようにやる。あとは教員の数についても、子どもの数が少ないからと言って決して楽なわけではない。逆に少ないほうが大変なこともある。教員の数もきちっと確保することも大事な要素と思う。学校は子どもたちだけでなく地域の拠り所であるという要素もあるので、学校を何か別の拠り所にするとか、単純に空いた学校をそのままにするというのではなくて、ほかの政策も提案していきながら、その子どもたちはやっぱり一定の人数で教育を受けるということのほうがいいことなんだろうと思う。子どもというのは一年一年が勝負なので、このあいだもエアコンを入れるということも2年3年ということではなくて、子どもは今年暑いんだと、だから予算が足りないということではなくて、よそから持ってきてでも付けてくれと話をしたくらいで、計画ができて3年後にやります、5年後にやりますでは遅い。なるべく早く、適切に行政として動けるといいと思う。

(市長)

皆様も現場を視察されたというが、私も現場主義で、現場を見ずして語るべからずとそういう主義であるので、現場の状況を間近に接せられて、これは大変だ、こういうふうにすべきだというようなご意見をお持ちであるとのことである。

また、学校施設自体が児童生徒のためにというのはもちろんであるが、地域における拠点の施設であるので、地域の皆様方のいろんなご意見を聴かなければならないという発想もあるが、最後は、子どもたちにとってどういう環境が一番いいのか、そこに注視するということが非常に重要ではないかと、やはり沼津の現状がこうであると、しっかり地域の皆様にも市民の皆様にも認識していただく、このことは大変重要であると感じた次第である。こういうことをきちんとお伝えして、その上でしっかりとした議論があつて、最後は「子どもたちのためにいかにあるべきか」とそういうところでしっかりと終着点を見出せるようにと思う。

とにかく地理的な状況というのもあり、学校が沼津の人口規模においては多いというような話も前から出ているが、現状を無視することはできないので、より教育環境として子どもたちのためになるよう皆様といろいろと議論を深めていきたい。

(委員)

学校現場を見たとき、当初想定した数よりも生徒が少なくなるので、学校自体が空き教室が多くて、人も少ないので、安全管理上問題が生じる。そういう点でもやはり生徒、学校自体の安全を考える面でも適正規模というのは非常に重要ではないか。それから、学校というのは子どもが最初に経験する社会であるので、やっぱりいろんな人間がいると、人との違いを認めて、違いを受け入れるというか、差別しないとかいじめをしないとか、人との違いを受け入れていくというのが教えていくことが大事だと思うので、そのためには十分な子どもの数がいないと、それに対する教育も不十分になるのではないか。あと、逆に子どもが多すぎた場合に、学童保育に入れられない場合もあつて、そういう場合には学区割も見直すとか、学童保育は子育て支援課が担当で教育委員会とは違うが、子どもや親にとっていい解決を図るためにも、各課横断して施策を検討していくというのも重要ではないかと思う。

(市長)

大変貴重なご意見をいただいた。社会性を学ぶ場ということを再三ご指摘いただいたが、学校が最初の社会ということにおいては、まさに重要な場所であることを認識している。そういう場所を確保し、子どもが将来大人になって社会人として歩くという意味において貴重な体験を踏んでいくということは大変重要なことなので、そのような環境を整備することは重要なことであり、また指摘のと

おり、児童生徒の数が多くなる地域もあると説明の中にもあって、放課後児童クラブの問題も実際にあるわけなので、そのあたりも部局を越えた取組みも必要かと考えさせていただいた。

(3) その他

(市長)

それでは、皆様の方からご意見等いかがか。

(委員)

日本は先進国の中でも教育にかけている国家予算の割合が低いそうである。せめて沼津市においては、「沼津は教育のまち」との標語ができるくらい、教育にも予算を心して充てていただきたい。素晴らしい沼津市の未来のために、よろしく願いたい。

(市長)

きわめて限られた予算において、お金をかければすべてがなせられるというわけではなく、ハード面だけでなく、ソフト面の充実も大変重要であり、何を主体として何を行うのかということをしつかりと見極めるということが大変重要である。沼津だからこそという沼津の教育の仕方があると思う。予算のことについては、議会のご理解を得ながらということとなるわけであり、沼津ならではの教育の在り方ということがあるのではと思っており、恵まれた自然環境や多彩な伝統・歴史、そのほかにも誇るべきものがたくさんあるので、取組の仕方によってはお金をかけなくてもというものもあり、掛けなければならないものについてはきちんと精査させていただきながら行うということが時としては必要であると私自身も認識している。

(委員)

やはり国家100年の計は教育にあると思う。もちろん教育にだけ全部予算をとるわけに当然いかない。限られている中でやられているから大変と思う。しかし、子どもにとって何が大事なことか。今は世の中全体的にそうであるが、お金が儲かればいいという風潮が蔓延している。大事なことは何かということをお子孫たちがきちんと考えていけるような考え方を我々が発信していく。そして、子どもたちがお金でなく、本当に大事なことを理解できたときに生きていく楽しみが生まれてくるはず。我々がまずやっていったらよいと思う。そうすればとてもよい世の中になるのでは。

(市長)

教育の関係の予算だけではなく、例えば市長部局の方で絡むもの、例えば子どもに関係するであろう、例えば直接的に教育に関わらなくても、例えば間接的に、知力とか体力とか学力、そんなところに結び付けるような、そういうこともあるのではないかと考えている。そういう意味で総合的に、もちろん教育の方の予算ということだけではなく、そういうほかの部分からも、そういう子どもたちのための環境づくりができればと考えているところであり、スポーツ振興もつながるし、環境政策でも取り組むことができる内容がいくらでもあるのではないかと、知恵を絞って、関係の皆様といろいろと協議をさせていただきながら、また、それを教育にどう生かしていくのか、という話があった場合には、またこういう総合教育会議の席で、皆さんと議論させていただければ実のあるものになると考えている。またよろしくお願ひしたい。

以上で、予定していた会議日程を全て終了する。本日は皆様方に貴重な時間を割いていただき、また、それぞれの皆様方の思いを述べていただいた。本当に私自身の今後の施策の反映とか行動に役に立つことばかりであり、活用させていただければと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

4 閉会